

公共交通対策特別委員会

日時 平成 2 4 年 4 月 2 5 日（水） 午前 1 0 時～
場所 第 3 委員会室

1 開議

2 議題

- 公共交通ワークショップまとめ

3 その他

- 次回委員会

5月25日（金）午前10時から

1 現状の課題

運行状況の課題

- 亀岡地域にもバスが通らない地域がある
- バス停までの距離が遠い地域がある
- ふるさとバス、コミュニティバス、京阪のすみ分けが市民に理解されていない、不公平感
- 公共交通不便地域の把握
- 通勤・通学・買い物・病院等ニーズにあう時間帯の便が少ない
- 土ヶ畑に便は増えたが通勤時間帯の便がない
- 休日運行がない路線があり高校生は部活等通学に困っている
- 西部地域、公共交通の便数が少ない
- JR との接続がマッチしていない
- 高齢になってくると駐車場まで行くことも困難
- 平均乗車人数が少ない
- 西部から来るバスが千代川駅まで来るがマツモトまでは行ってくれない不便さ

- 1 公共交通不便地域
 - ・ 路線・便数・時刻・ニーズとの整合
 - ・ JR との接続・バス停までの距離
- 2 不公平感
- 3 利用少ない

料金、市の負担の課題

- 京阪バス、コミュニティバス、ふるさとバスの運賃格差
- 負担はあっても便利になることの市民の理解
- 便利なところ（旧町）がワンコインの恩恵を受けている、不公平感

- 1 料金格差
- 2 料金と便利さとのバランス

2 亀岡市の公共交通の理想

重視すべきこと

- モーターゼーションから公共交通への移行を
- 高齢者等交通弱者の視点で
- 徒歩の場合坂道と平坦地では負担が違う、高齢者が病院へ行かれるための交通手段確保を
- バスに乗ろうという意識を高めることが重要

- 1 公共交通への移行、利用の意識向上
- 2 高齢者等交通弱者の視点で
- 3 利用者の目的、ニーズに合った運行

役割分担

- スーパーの事業者にも負担してもらいスーパーまでの運行を
- 目的地をスーパー、病院にして協力金を負担してもらう
- 地区社協でバスを購入し地域で運営
- 地域での料金負担（定期券の購入）
- 買い物巡りのバスを出して、事業者からの資金を集めては（マツモトにも提案）

- 1 地域・団体・スーパー等の経費負担
- 2 事業者との協働による利用増

採算性・運賃設定

- 市内全域均一料金にするべき（乗換した場合にも）
- 利便性を求めるなら負担も上がることを理解いただく

- 1 均一料金
- 2 料金への利用者理解

デマンド交通等の導入

- 東別院町のふるさとバス運行は実態に合っていない、デマンドバスが効率的
- バスだけでない交通手段の検討を
- 有償ボランティア、退職者の雇用によりバス停までの送迎を
- 予約制のデマンド導入を
- タクシー事業者参入によるデマンド交通
- 交通手段は全市一律ではなく柔軟性をもって検討する
- バス以外の手段とコストを検討し、できるだけ多くの選択肢を
- デマンドバスを社会実験でやってみてはどうか
- 運転を NPO に任すのかなど亀岡の独自性をだして
- 乗り合いを市が促進すると民業圧迫になるのでは
- 高齢者と契約方式でやっては。決まった路線を一日中走る

- 1 デマンドバスの検討を
- 2 バス以外の交通手段、運用の検討を
 - ・ 有償ボランティア、NPO、高齢者
- 3 検討ではコスト、民間事業活動の妨げに留意

その他

- パークアンドライトの研究を
- 路線上で手を挙げたら止まってくれるなどの親切さ・フリーストップが必要
- かめおかアッシーがある、補助などはどうか

- 1 フリーストップ
- 2 パークアンドライト
- 3 事業者への補助金交付の検討

3 バス交通の改善

- 南つつじヶ丘・馬堀区間を夕陽ヶ丘まで路線延長を
- 篠町内の路線充実を（府道王子並河線の運行又は北古世西川線の運行）
- 中矢田篠線と北古世西川線をつなぐコミュニティバスの運行を
- 坂が多くバス停までの移動が困難、コミュニティバスの運行を
- ふるさとバスから京阪バスの乗り継ぎをなくす
- 高齢者のために目的地までの小型バス（10人乗り程度）の運行
- ふるさとバス、コミュニティバスを混合させて便利にしてほしい
- 大きいバスを使わず、ワンボックスカーを使って
- 運転手も再雇用の運転手を使って
- 乗車の希望の少ない路線への配慮を
- 1週間のうちに1回・2回でも運行してほしい

- 1 現行バス交通の見直し、改善、充実

4 利便性の向上

- 病院までの送迎
- 宮前町でも要望があった。経由してやっと病院に行くというのはあるが、直接病院に行ってほしい。
- 行き先ニーズにあわせた配車が必要（駅・病院・買い物）

1 行先ニーズに沿う路線設定

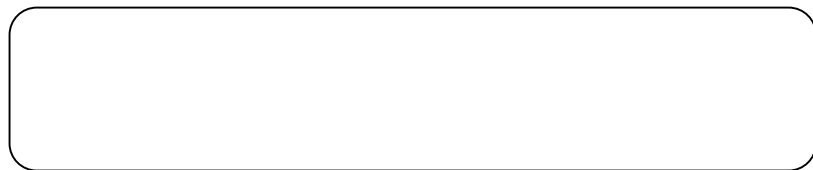
5 利用促進の方策

- スーパー等事業者との協働（買い物クーポン券をバス料金に）
- 高齢者にパス券、無料券の配布
- 川東は七福神めぐりなどで観光シーズンでは増便が必要
- 増便したらコストが・・・
- 観光客をターゲットに絞ると、行き帰りの時間帯を考えるべき
 - 一定年齢（75歳）以上は無料にするなどすれば 京都市は無料
 - 命名権等、広告収入などの工夫を

- 1 地域・団体・配付
- 2 観光とのマッチング
- 3 命名権等、広告収入などの工夫

6 その他

- ＪＲ駅の駐車スペースの混乱解消
- 市職員の通勤等バス利用を
- 地域で送迎ボランティアの希望があるが、事故等責任問題から実現できない状況がある
- 京丹後市の事例 あえて値上げ・ワンボックス車のバス運行をされている
- 他市の事例が亀岡に合うかどうかは調査が必要
- 実態を一番よくわかっている運転手さんに聞くのがよい
- 要望があってもバス路線をつくっても結果的に利用がないところもある。要望がすべてと考えることは出来ない。
- 市民の交通手段確保としてだけでなく、他の役割を持たせることについても考えるべきでは？



（アンケート調査関連）

- 実際の乗車につながる運賃（バス料金）をアンケート調査で
- H25 調査、H27 運行開始では遅い、できるところから進めるべき
- コンサルに投げるだけでなく、きちんと経済学者・社会学者の助言を得てアンケート項目を作成・実施・結果のまとめを
- 市民の負担意思を確認する。いくらなら支払うか。利便性と負担可能額のバランスを測る。
- 老人会など交通弱者に対するアンケートを
- アンケートでは受益者市民の意見に偏らないよう負担者市民の意見も聴取する

- 1 利用につながる調査
- 2 早期実施
- 3 利便性と負担のバランスを分析
- 4 交通弱者の意見聴取
- 5 学識経験者からの助言
- 6 広く公平に市民意見聴取